

農業分野におけるオープンAPI整備に向けた検討会（第2回）  
議事概要

日時：2020年10月14日15:00～16:50

場所：合同庁舎4号館1219-1221号室

出席者：上原委員、榎委員、木下委員、齋藤委員、澁澤委員、神成委員、  
高橋委員、錦織委員、藤原委員、松澤委員、丸田委員、三谷委員、  
吉田委員

概要：次第に沿って議事を進めた。概要は以下のとおり。

- オープンAPIを進めていくという農機メーカー4社の意思を確認した。メーカーにここまで議論をしていただけて感謝。このように4社連名のペーパーが出るのは初めてではないか。
- メーカー各社のすべてのデータを短時間に標準化するには無理があることを前提に、どのように有効活用できるか、ベンダーとして考えていきたい。
- 資料では優先順位が低いとなっているが、アワーメーターに合わせてエラー情報があれば、農機の管理方法を検討できるので、エラー情報の連携も進めて欲しい。
- 農業者としては、欲しいデータは、農業者の利益に直結する収量と施肥量。これらのデータを活用して可変施肥等次期作につなげたい。これが実現できればICTを備えた農機の購入につながる。
- この検討会では対象外だと承知はしているが、次のステップとして農作業のサプライチェーンの一部である乾燥貯蔵施設（ポストハーベスト）との連携も重要。検討会の取りまとめでも、次のフェーズの課題として組み込んで欲しい。

- 作業時間については、農機のオンオフで記録されるデータと、ユーザーの記録する作業開始・終了のデータがある。作業時間の定義を農機メーカーが揃えることは困難なため、メーカーはどのような定義のデータかを示し、ベンダーが使い方を考える必要がある。ユーザーに対してどのようにデータを見せるのかは、現状のままでは競争領域になる可能性が高い。
- 位置情報、作業時間、燃料消費量を使って、ユーザーは費用計算、労務管理のための入力を省略したい、自動化したいと考えるだろう。
- 農機の生データ（動作データ）を受け取って判断したい農業者もいる。農機データをユーザーにどのように見せるかはベンダーの役目。
- メーカーから示された考え方に沿って、実際に API を利用するための要件設計について、メーカーとベンダーが協力してたたき台を作成し、次回検討会で議論してはどうか。本検討会の範囲外ではあるが、前倒しで進めたい。
- 将来的には、本検討会の議論の結果を後付けの自動操舵システムで取得される位置情報や、ISOBUS 対応農機によって得られる作業機データなど広く波及するよう期待される。

#### <結果>

- ・資料1の事務局案に沿って関係者が更に検討を進めることとなった。
- ・資料2の農機メーカーの基本的考え方に沿って、ICTベンダーと農機メーカーが協力して、API連携のための要件設計のたたき台を次回検討会で提示することとなった。
- ・資料3のガイドライン骨子案に沿って、事務局がガイドライン原案を作成することとなった。